

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202148		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホーム みずあおい		
所在地	静岡県静岡市葵区北1892-8		
自己評価作成日	平成23年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosi/p/information/Publi.c.do?JCD=](http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosi/p/information/Publi.c.do?JCD=007400014000000-0001P00-00)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット	
所在地	静岡県静岡市葵区千代田3丁目11番43-6号	
訪問調査日	平成24年3月16日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湖山医療福祉グループの理念である『自らが受けたいと思う医療と福祉の創造』と、グループホームみずあおいとしての理念『居心地のよい、ぬくもりあふれる光の中で、楽しい時間をいつまでも』を実践すべく、業務中心ではない、お客様中心の介護が行えるよう日々努めております。

また、太陽の光がたくさん差し込む広いリビングは、ご家族様も一緒にゆったりと過ごして頂けるゆったりとした空間となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、旧静岡市北東の通称、麻機地区の山間部に所在していますが、付近には大型食品スーパーもあり、古くからの生活用品を中心とした商店も点在し新旧住民で形成された住宅地にもなっています。デイサービス事業所も建屋内に併設されていますが、ホームが占める1階・2階の各ユニットは広く、利用者の皆さんも思い思いのグループが出来、落ち着いた生活を送って居られます。法人の理念や行動指針のもと、事業所理念も職員間に浸透し、そのコンセプトが共有され利用者ひとり一人に寄り添っての支援が続いています。職員の中には、自分の居場所が見つからず孤独になりやすい利用者も多く居がちですが、男性同士も和気あいあいと会話に笑顔が見られます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
○	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・事業所理念を掲示し、会議等でも確認をしながら事業所内で共有し、周知と実践に努めている。	当該事業所の職員は、法人としての理念が確立され、理念を遂行するための行動指針も多項目にわたり提示され、職員教育で徹底されている環境下で、地域密着型事業所としての独自理念をも共有し実践に取り組んでいます。、	
○	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域イベントにはご入居者様と共に積極的に参加をしている。また、地域に向けてのイベントを発信したり、ボランティア活動に来て頂いたり、相互交流が行われている。	具体的には事業所の周年祭等へ地域の方々を招待し利用者・家族・職員との交流の場となった事、認知症サポーター講座を開催する毎に出席者も増えている事、散歩時「みずあおいの人」と理解され挨拶し合える関係が出来た事など伺いました。	
○	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	問い合わせを頂いた場合には事業所にて相談を行ったり、認知症サポーター養成講座を行うなど認知症への理解を深めていただくよう努めている。		
○	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議を実施している。地域包括・地域住民・ご家族様への活動報告や話し合いを行っている。	運営推進会議は隔月1回定期的に開催され、地域から町内会副会長、民生委員などの出席も会議報告書で知ることが出来ます。議題も適切で、活発な発言が記録されています。会議結果は行政にも報告されています。	
○	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	届出等がある場合は積極的に担当部署に出向き連携を深める取り組みを行っている。	事業所として用件ある場合は市へ出向く事があっても、市側からの事業所への情報の流れには、法令改正に伴う集団指導や通達を除いては見えないものがあります。地域密着型サービス事業所としての市との関わりは、これからと考えます。	平成24年度の制度改正に伴う諸事項や政令都市としての県側からの市への委譲の問題等に鑑み、更なる市との連携が必要と考えます。
○	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修にも積極的に参加し、身体拘束をしないケアは周知・実践されている。今後さらに理解を深めていけるよう努めたい。	事業所として、「在り得ない事」として徹底されています。法人としても12月・2月の2回、小規模の介護事業所職員を対象に身体拘束、虐待に関する研修が持たれスピーチロック・ドラックロックに至るまでゼロの確認をされているとの事です。	
○	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の徹底もされており、法人内の研修にも積極的に参加している。今後さらに理解を深めていけるよう努めたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用されているご入居者様もあり、管理者は理解しているが、職員にまでは周知をされていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、ご理解頂ける説明となるよう努めている。		
10	(6) ○	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会(年1回程度開催)・来設時などに近況報告の中、ご意見や苦情等を聴取し、運営に反映させるようにしている。	「ホームパーティー」の名の家族会は出席率よく、家族の大勢が参加しますが、普段聞けない事まで聞く事が出来、その声を反映させるよう大事にしています。その他、お家族の訪問の折などの機会を捉え、意見の吸収・反映に努めています。	
11	(7) ○	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議・全体会議・部署会議などの職員の意見や提案を発信する機会を設け反映させている。	法人内に運営に関する職員意見が反映される場が、各種システムとして出来上がって機能しているので、関係会議で発言、聴取した事柄は事業所へフィードバックされ現場にも生かされる事が多く、良いかたちになっています。	
12	○	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件の整備には努めているが、職員の向上心に繋がっている実感は薄い。		
13	○	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修計画が確立されており、年度を通して計画的に研修に参加できている反面、外部研修参加への取り組みは薄い。		
14	○	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修や勉強会を通じて、他事業所との交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お申込み前に、なるべくご見学頂き、ご本人様のご要望などをできるだけお聞きし、安心してお過ごしいただけるよう努めている。		
16	○	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お申込み前に、なるべくご見学頂き、ご家族様のご要望や、ご本人様の経過・状況などの情報を十分確認した上で、安心してお任せいただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お申込み前に、なるべくご見学頂き、ご本人様の経過・状況などの情報を十分確認した上でご提案するよう努めている。		
18	○	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を大切にし、ご本人様の残存能力に合わせた家事活動などを心掛けており、日常の会話などでコミュニケーションをとり関係性を築くよう努めている。		
19	○	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来設された際は、明るいお声かけに努め、近況報告を通じてコミュニケーションを図る事で良好な関係性を築くよう努めている。		
20	(8) ○	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会にお越し頂きやすい穏やかな空間作りを心掛けており、外出時などは馴染みの場所へお連れすることもあるが、馴染みの人との関係が途切れないような支援までには至っていない。	馴染みの方が訪ねて来られた時の居室以外の面接の場の提供や外出時、馴染みのスーパーや商店へ立ち寄るなど、事業所が出来る範囲の支援は通常に行われています。	
21	○	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の相性を考慮した座席配置を行い、職員も間に入りながら孤立しないような支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性は大事にしているが、相談・支援を行うまでには至っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中でご本人様の意向や思いを把握できるようにしている。また、ご家族の意見・情報からご本人様のご希望に結びつけるよう努めている。	センター方式を基本とした事業所のシートのほか、最近では個人別の小さな情報ノートを作成し、日常時の会話や仕草の中から思いや意向を把握して、その情報をメモし職員が共有することで支援に役立てていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテークでの情報やセンター方式のシート等で、ご利用者様の情報把握、共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・バイタルチェック表などを用い、お客様の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時にはサービス担当者会議の中で、ご入居者様の現状を話し合い、それに即した介護計画となるよう努めている。	ルールに沿った介護計画の作成、見直しのほか、利用者各位の現状変化に応じて、随時、計画の見直しを行い、必要に応じて家族を交えたサービス担当者会議を開催するなど適切に運営されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には日常の様子や、気づいた点等をできるだけ細かく記入するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスを利用するなど、柔軟なサービス提供に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小中学校の介護体験の受け入れや、幼稚園行事への参加、また地域の理髪店を利用するなど、地域と密着したより良い暮らしになるよう努めている。		
30	(11) ○	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医へはご家族付き添いのもと受診を行っている。体調に変化があった場合は、看護職員やご家族へ相談し、必要な医療を受けられるように支援している。	協力医とは別に、定期的往診に来られる医院とも良い関係にあり、約半数の利用者はその医院をかかりつけ医としていました。別の医院がかかりつけ医の場合は、原則として受診支援は行いませんが、情報提供などで良い関係ができています。	
31	○	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携記録や看護職へ相談する事で、それぞれのご利用者様が適切な受診・看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報や相談はご家族様との連絡となる為、入院先への直接的な関係作りは出来ていない。職員が見舞いの際に状況把握を行っている。		
33	(12) ○	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取りの指針を持ち、ご家族様との話し合いのもと、看取り介護を実践した。今後はチーム支援へのさらなる理解が必要である。	重度化や終末期に至っての指針に基づき、家族への説明は、出来てはいるものの、利用者の超高齢化に伴う看取りは避けられないものとなっているようです。重度化や看取りに関しての連携が、出来る医療機関を模索しているのが現状のようです。	最近の家族世代の考え方の変化に沿うよう、法人及び事業所の作成した重度化や終末期の指針に基づき、事業所として携われる事柄に付き、ご家族と本件に特化した文書を取り交わすなどの検討を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員が救命救急講習を受講済みであるが、実践力を身につけているとまでは言えない。		
35	(13) ○	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアル整備や定期的な訓練を行いながら周知に努めているが、地域との協力体制は築けていない。	施設内での防災訓練等は計画的に実施されています。最近では、地域の防災訓練に参加の誘いがあり、併設事業所の職員とともに積極的に参加し協力体制を作るようには努めていました。	町内会行事や運営推進会議を通しての地域との関係が徐々に深まってきているようですので、災害時の地域との関わり合いについても双方で協力できる問題点等を話し合う段階になったと考えます。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36 ○	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人に寄り添うケアを大切にし、プライバシーを損なわない言葉かけや対応には常に確認・徹底を図っている。	法人の充実した研修や現場でのOJTを通じて基本的な事柄については職員全員が理解して介護に携わっていますが、最近では、言葉かけ一つでも利用者の職業歴、生活歴等を個々に知った上での敬称を考えるなどして徹底を図っていました。	
37 ○		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様ご本人の希望が最優先されるような働きかけに努めている。		
38 ○		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならぬよう心がけ、日々の生活がご利用者様の希望・ペースに沿ったものになるよう努めている。		
39 ○		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の意思を尊重した身だしなみ・おしゃれができるよう支援している。		
40 ○	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員とご利用者様がメニューの決定から、食材調達、調理、片づけ等、一緒に行えるよう心掛けている。また、誕生日には外食も楽しんで頂けるような支援も行っている。	スーパーへの食材購入時には、車椅子の方も一緒に、同行していただいたり、一人ひとりの健康状態に配慮したり、好き嫌いを考慮したメニューを考えるなどして利用者全員が準備の段階から参加しての食卓を考えていました。	
41 ○		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の状態等に合わせて、刻み食、ミキサー食等の対応を行っている。また、お好みに応じた飲み物などを用意する事で水分確保の支援に努めている。		
42 ○		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食・夕食後に実施しており、今後は昼食後にも実施するよう改善していきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、有効な声かけのもとトイレでの排泄ができるよう支援を行っている。	ホームに入所された事によって、職員が一人ひとりが利用者の自立支援のため寄り添い介護をする成果として、日中は布パンツで過ごせるよう改善された例が多々あるようです。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや水分の頻繁な水分摂取、また腹部マッサージなどにより便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前・午後問わず、毎日入浴可能な環境を提供している。	リビングでのアットホームな雰囲気、利用者が穏やかに過ごされているので入浴拒否をする方もなく、二日くらい入浴しない方でも、声をかければ三日目には快く入浴されているとの事、入浴に関しても良い支援が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の体調を考慮した室温調整や、眠れない方には温かいお飲物を提供するなど、なるべく安心して気持ちよく眠って頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、情報の周知・徹底に努め、確認ができる環境のもと、服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	併設のデイサービスへのレクリエーションや行事の参加、また希望外出や喫煙管理など、役割・楽しみごとの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物や、近くの公園への散歩、また季節ごとのドライブなど、ご利用者様の体調等を考慮しながら外出できるよう支援している。	年間計画に基づく外出支援はホーム内に掲示されている外出時の記念写真などを見ても、かなり行われている事が判りますし、地域内の散歩や日常的な買い物などの支援も頻繁に行われています。最近では、利用者からも散歩に出かけようと要求されるようです。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際には必ず職員が同行しているが、金銭管理は全て職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などは、ご本人様・ご家族様のご希望に応じて対応できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりが良く、静かな空間の上、季節に応じた掲示物を配置するなど、居心地の良い空間作りに努めている。	1・2階のユニット共にグループホームにはない広さの共用空間で壁側中心部に厨房と配膳カウンターがあり見守りにも配慮されています。採光もよく、明るくて暖かな落ち着いた雰囲気と和風ゾーンもあり、壁には日頃の生活が理解できる掲示物や利用者の作品が並び雰囲気を和らげています。	
53	○	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	掘りごたつのある和室やテレビ前のソファ、窓際のソファなど、思い思いに過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際にご本人の使い慣れた馴染みの家具や思い出の品を持ち込んで頂き、ご本人様が居心地良く過ごせる工夫をしている。	職員がパソコンで作成したホームでのにこやかなご本人の写真を貼り付けたカレンダーが飾られたり、米国在住の姉から送られたというイチローの写真やグッズで飾られた居室など、思い思いの品を持ちより生活を楽しんで居られます。	
55	○	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレの表札や、手すりの設置など、安全で分な環境作りと、ご自身で出来る事はなるべくご自身で行って頂くような声かけなどに努めている。		